

インフラストラクチャのコード化と Compute Engine の運用管理をアップデート

栃沢 直樹

グーグル・クラウド・ジャパン合同会社パートナー エンジニア

スピーカー自己紹介



栃沢 直樹 グーグル・クラウド・ジャパン合同会社 パートナーエンジニア

パートナー エンジニア Infrastructure Modernization 担当

VMware vExpert (2017 -)

日本ネットワークセキュリティ協会 デジタルアイデンティティ WG サブスクライバ

このセッションのゴール

技術的な Deep Dive

よりクラウドっぽくインフラを運用するための方法を 知って、試してみようと思っていただく

ビジネスに必要なもの

More customer value

More quickly

Lower cost

Less risk

More infra choices

モダンなクラウド運用



Simplify:

パブリッククラウド、データセンター、エッジなど、あらゆる場所へ展開



Accelerate:

開発速度と安全性 / コンプライアンスの トレードオフを排除



Scale:

数百、数千のチームの組織規模と成長に 対応する将来性

「仕組み」を上手に使って「モダンなクラウド運用」

システム構成の「統合管理」



システム構成の「コード化」または「データ化」









システム構成の「統合管理」

コンピューティング リソースの移行ステップ

Discover

既存システムの見える化

Estimate / Assess

コスト/移行計画





Migrate for Compute Engine

Migrate

ワークロードの移行

Operation

ワークロードの管理





Cloud Monitoring



VM Manager: Google Compute Engine をより深く管理



複雑さを簡素化して 大規模な環境でも Google Cloud O マネージド サービス で より管理しやすく

OS Config Agent





OS Inventory Management





2 OS Configuration Management





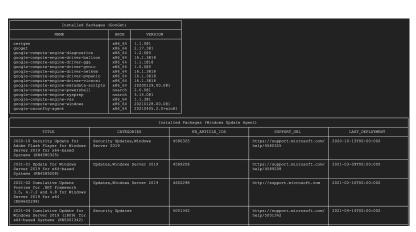
3 OS Patch Management

OS Inventory Management

次の情報を一元取得

- インスタンスの OS バージョン
- インスタンスにインストールされている パッケージ情報
- 各インスタンスで使用可能なパッケージ 更新一覧
- インスタンスにインストールされていない パッケージや更新プログラム

部門ごとに管理されているインスタンスに 対してもすべてのアセット情報を部門を跨いで管理 することでガバナンスを強化



SUPPORT URL LAST DEPLO	OYMENT
):00Z
ķ	

OS Configuration Management

あらかじめ設定したポリシーに則り、インスタンスへのソフトウェアのインストール、削除、更新をマネージドサービスとして提供

定期的にポリシーに則っているかを確認

完了

キャンセル 同等のコマンドライン ▼

ロールアウトを開始

- ポリシーで定義された "あるべき姿"と差異がある場合には OS 標準のパッケージマネージャー (apt / yum install など) を利用して修正
- OS やラベル、リージョンなどによってゲストポリシーの適用対象となるインスタンスを制御



OS ポリシーを作成に活用できるサンプルコードも提供

https://cloud.google.com/compute/docs/os-configuration-management/working-with-os-policies#example-4_1

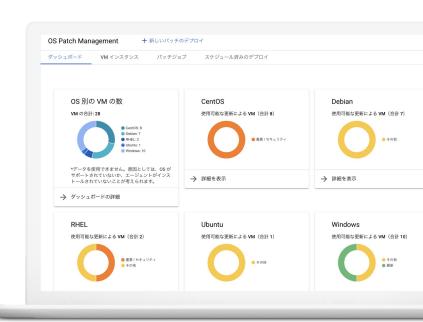
OS Patch Management / Patch Compliance Reporting

インスタンスにおけるOS の更新作業を簡略化し、OS を脆弱性などの脅威から保護

更新を適用するOSをはじめ、次のパラメータを定めることで煩雑な更新作業が一括管理可能

- スケジュールや実行時間 (例:60分でタイムアウト)
- 一度に更新を適用するインスタンスの割合
- 更新前後に実行するスクリプト
- 更新後の再起動有無

更新の適用状況はOSごとに一括して確認可能



VM Manager リファレンス



https://cloud.google.com/compute/docs/vm-manager



システム構成の 「コード化」または「データ化」

「コード化」「データ化」のメリット

構築工数の削減

再現性

設定ミスの防止

設定内容の可視化

継続的な活用によるバージョン管理



人為的な作業に頼らなくても 良い部分を仕組みとして実装

コード化: Infrastructure as Code

データ化 : Configuration as Data

Infrastructure as Code

システムをそれぞれ手動で設定するのではなく、「目指すべき構成」を「コード」として定義する

コードで管理	ソースコードのように構成を扱う
デプロイの自動化	インフラストラクチャの目指すべき構成を自動化により再現
監査性	コードのバージョン管理とデプロイ時の状態の管理

Infrastructure as Code を実現するツール





Deployment Manager

Google Cloud のサービス・サポートあり

プロプライエタリ

ステートは Google 管理 (hosted)

Google Cloud 環境での利用

Terraform

CLI 実行

オープンソース

ステートは ローカル / GCS で自己管理

マルチクラウド、ハイブリッド クラウド での利用

Terraform with Google Cloud

オープンソース ※有償版あり

インフラ リソースの プロビジョニング マルチクラウド ハイブリッド クラウド コード化による 共用性とミスの削減

Modules

- main.tf
- variables.tf
- outputs.tf
- terraform.tfvars

Plan

Deploy

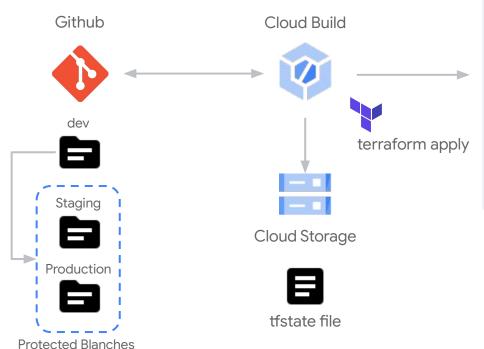
\$ terraform plan \$ terraform apply

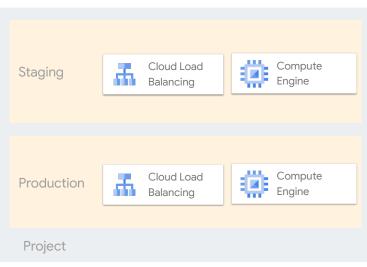
Cloud Load Balancing Instance-b1 インスタンス グループ Instance-a2 aisa-northeast1-b aisa-northeast1-a リージョン asia-northeast

Cloud Build を活用したTerraform 環境

Pull Request によるコードレビュー、 承認プロセスの確立

オペレーションミス、組織としての対応を実現







既存リソースから Terraform コードをエクスポート

Google Cloud CLI を利用して、デプロイされているGoogle Cloud リソースから Terraform 形式でエクスポート

gcloud beta resource-config bulk-export --resource-format=terraform --path=./
--project=ntochizawa-gke-demo01 --resource-types=ComputeNetwork,ComputeFirewall,ComputeInstance



- より簡単にTerraform コードを作成
- 本番環境と設計当初の状態の差異を解消

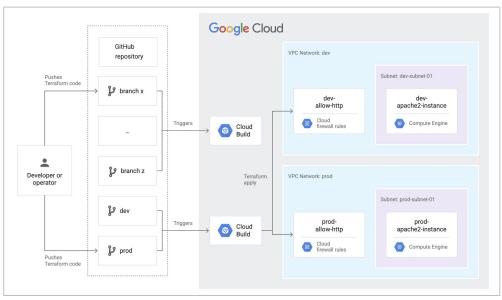
<u>Terraform と gcloud CLI を使用した完璧なGoogle Cloud インフラストラクチャの構築 gcloud beta resource-config bulk-export</u>

Terraform with Google Cloud リファレンス

Cloud Build で Terraform デプロイの スケーリングとコンプライアンスを実現 Terraform、Cloud Build、GitOps を使用してインフラストラクチャをコードとして管理する



https://cloud.google.com/blog/ja/products/devops-sre/terraform-gitops-with-google-cloud-build-and-storage



https://cloud.google.com/architecture/managing-infrastructure-as-code

Configuration as Data

インフラやアプリの「望ましい状態」を「データ」として定義し、デプロイ、管理する 宣言型アプローチ

データで管理

 「望ましい状態」を「データ」として定義

 状態の監視

 定義したデータと実際の環境との差異を観測
 状態の復元
 「望ましい状態」と実際の環境の差異があった場合に自律的に復元

- Google では宣言した状態が 恒久的に 維持される仕組み を併用するアプローチを推奨
- データなので継続的に検査&検証しやすい

Google Cloud リソースを Configuration as Data で管理

インフラ ストラクチャの 構築機能

Kubernetes Resource Model (KRM)

- Kubernetes のデプロイの仕組みを利用するため、汎用的に利用ができる
 - Kubernetes 以外の Google Cloud の各リソースを管理できる
- コードの依存関係を極力意識せず、パラメータのみを設定
 - Kubernetes 初心者でもリファレンス、Blueprint を活用できる

定義したデータの 管理機能

GitOps

- Git リポジトリの情報を信頼できる唯一の情報として デプロイの再現性、完全性を担保
- バージョニング、複製についても適切に管理できる
- CI/CD の既存のパイプラインとの親和性



Git リポジトリ

クラスタ

Config Controller とは

Google Cloudリソースの プロビジョニングと オーケストレーションを行う ホスト型サービス

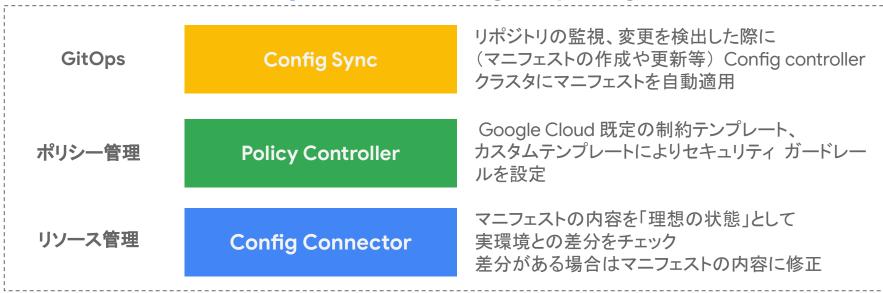


- Kubernetes スタイルのシンプルな 宣言型の構成を定義して使用
 - Kubernetes エコシステム、リソース管理の仕組みを クラウドリソース管理に適用

Config Controller の基盤として
 Google Kubernetes Engine (GKE) クラスタを構成

Config Controller を構成するコンポーネント

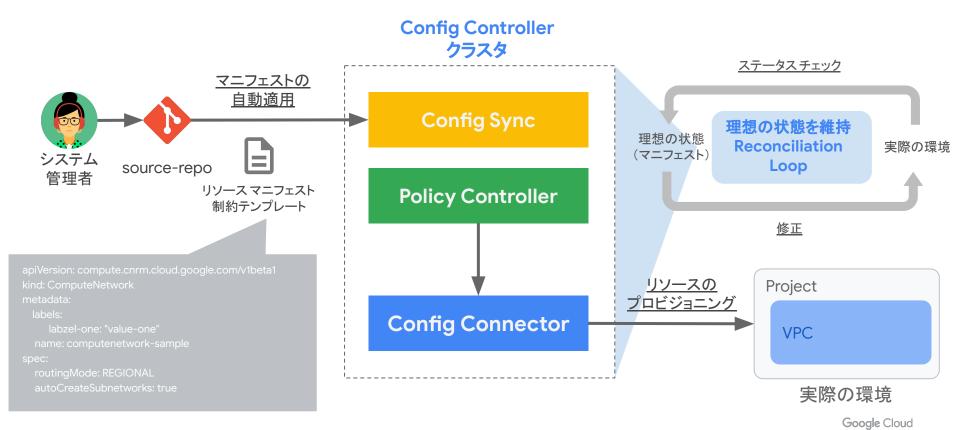
Config Controller managed by Google





GKE に Config Controller クラスタを構成

Config Controller によるGoogle Cloud リソースの管理



Configuration as Data + GitOps のメリット

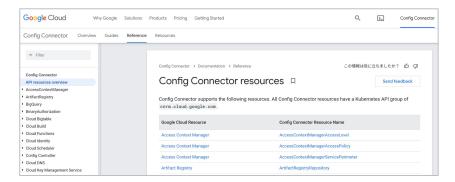
- 本番環境に安全にデプロイできるプロセスを確立できる
 - コンプライアンス
 - バージョニング、コラボレーション
 - 環境変更前の**テストや適用自動化**によりリスク軽減

- **理想状態が維持され**、理想と実環境間で**差異は起きない**
 - Reconciliation loop

● 管理対象が大規模になろうと**運用負荷は一定**

Config Connector Resources リファレンス

Config Connector Resources リファレンス



https://cloud.google.com/config-connector/docs/reference/overview

制約テンプレート ライブラリ



https://cloud.google.com/anthos-config-management/docs/reference/constraint-template-library

制約テンプレートの作成: https://cloud.google.com/anthos-config-management/docs/how-to/write-a-constraint-template

Landing Zone

Google Cloud のベストプラクティスに基づいた環境を、迅速にセットアップする

ためのブループリントを yaml で提供する。カスタマイズも可能。

https://cloud.google.com/anthos-config-management/docs/tutorials/landing-zone

- Google Cloud の構築と移行の加速
 - 構成管理を自動化させ、ブループリントを 活用することで Google Cloud の 構築や管理時間を短縮できる
- 運用の一貫性
 - Google Cloud の構成管理を容易に自動化できる
 - CaD(Configuration as Data)として yaml を qit 管理することでインタフェースを統一

★ 注:このブループリントは、企業の Google Cloud リソース全体の管理を任された管理者を対象にしています。デプロイするには、組織管理者の Identity and Access Management (IAM) ロール (または同等のカスタムロール) が必要です。

ュリティ、リソース管理のベスト プラクティスなど)を提供します。

Terraform with Google Cloud & Config Connector

Terraform with Google Cloud

Infrastructure as Code

Config Connector

Configuration as Data

モデル	宣言型 デプロイする設定をコードとして定義	宣言型(KRMをベース) デプロイする状態をデータとして定義
ステータス管理	デプロイ時の状態を管理 tfstate ファイルでステータスを管理	「望ましい(理想)状態」を維持 (Reconciliation Loop)
言語	HCL(HashiCorp Configuration Language)	yaml
目的	サービス単位の デプロイの自動化	Google Cloud リソースの維持、管理
選択のポイント	既に利用している経験を元に マルチクラウドでの統合管理	Kubernetes のスキルセット・仕組みを 生かしたリソース管理



まとめ

まず試してみるところから始めてみましょう!

- Compute Engine インスタンスに対しても適切な Google Cloud が 提供するマネージドサービスを活用してインベントリ、セキュリティ管理を実 装できる
- Infrastructure as Code、Configuration as Data を取り組む上で必要なこと
 - インフラストラクチャの基本的なキャッチアップ
 - リファレンス、ブループリントを活用
- 徐々に大きくなるクラウドリソースの管理を見据えたインフラ管理を「チーム」で「適切に」実現できる仕組みを目指すきっかけに
 - テスト環境と本番環境の分離

Thank you.

